

検定項目	内容	評価	備考
天気予報	その日の天気予報を理解している	1・2・3	
プレフライトチェック	パッセンジャーへの説明（行う事、意識する事、注意点）	1・2・3	
	レスキューチェック、正しいラインチェックができる	1・2・3	
	スタート前の7チェックが確実にできる	1・2・3	
	ここまでの動作が毎回同じで習慣化されている	1・2・3	
フロントテイクオフ			
基本姿勢	立ち位置、高いフックポイントに合った姿勢が取れる	1・2・3	
ライズアップ	左右均等な荷重になっている。パッセンジャーの動きに合わせた動作ができる	1・2・3	
	傾き修正動作が最小限でできる	1・2・3	
頭上安定と決断	キャノピーの動きの流れが逆行も先行もせず、頭上で安定できる	1・2・3	
	ラインとキャノピーの目視が効果的にできる	1・2・3	
リバーステイクオフ			
基本姿勢	可能な限り左右均等な立ち位置、バランスが取れている	1・2・3	
ライズアップ	風に合った動きができています	1・2・3	
	必要最低限量でのブレーク操作ができています	1・2・3	
頭上安定と決断	ブレーキングで中止が可能な状態である	1・2・3	
	スムーズな向き直りでキャノピーが安定している	1・2・3	
フロント、リバース共通			
加速	グライダーの動きに合わせたスムーズな加速ができる	1・2・3	
	飛び乗らずに効果的な走りでの離陸ができる	1・2・3	
テイクオフとデパーチャー	パイロットの足は後ろで上体が前となる効果的な姿勢である	1・2・3	
	最低5秒以上のスタンディングポジションを両者とも取れている	1・2・3	

検定項目	内容	評価	備考
フィギュアエイト	28秒で完了できる	1・2・3	
	左右均等な円になっている	1・2・3	
	開始、切返し、終了の各目標のズレは10度以内で揃っている	1・2・3	
	切り返しがローリングの要領でできている	1・2・3	
	検定員が見やすいカメラアングルになっている	1・2・3	
ビッグイヤー	手順が基本通りにできる	1・2・3	
	スムーズな導入ができる	1・2・3	
	検定員が見やすいカメラアングルになっている	1・2・3	
アプローチ	風に応じたアプローチの選択ができる	1・2・3	
	旋回では余分な振り子でパッセンジャーへの負担を掛けないケアができる	1・2・3	
	ファイナルアプローチの直線が4秒以上ある	1・2・3	
ランディング	遅くともファイナルレグに進入したらスタンディングポジションが取れている	1・2・3	
	接地の際のブレーキングではクライミングの形で減速できる	1・2・3	
指定地ランディング	半径10m以内に着陸できる	1・2・3	
パッセンジャーへの配慮	全てに於いてパッセンジャーのケアができる（動作案内、揺れの制御、接地サポートなど）	1・2・3	

*評価の1は不可、2は課題提出、3は合格となります。

*検定は2本行います。判断が難しい場合は検定員の判断で3本目も行い、該当科目の検定を行います。

*プレフライトチェック、テイクオフ、アプローチ、ランディングの項目は2本共に評価3であること、その他項目は1本が評価3であることを合格の基準とします。

*危険行為があった場合は、その時点で検定終了、不合格となります。

天気予報

その日の空模様を気圧配置から気圧の風、場の風に分けて理解する事で、フライト状況がイメージできる

プレフライトチェック

テイクオフに着いてからスタートチェックまでの流れは毎回同じ動作で習慣化することでミスを防ぐ効果があり、スムーズな流れはパッセンジャーにも安心感を与えます。
7チェックは手で触って確実にを行う習慣を付けてください。

フロントテイクオフ

真っ直ぐスムーズに上げるために、パッセンジャーに先に走り出してもらって、その勢いに合わせてパイロットが荷重を掛けたり、ブレーキをしたりして合わせます。頭上安定では取り止めができる状態（スピード）である事が大切です。

リバーステイクオフ

風が強いとパッセンジャーの動きが重要です。後退か前進かの確かな声かけが大切です。

フロント、リバース共通

キャノピーのバランスが合っていれば、数歩で浮くハズです。的確な声かけで走りを促します。

テイクオフとデパーチャー

離陸後5秒はスタンディングポジションで万一の接地に備えます。その後緊張しているパッセンジャーをまず先に座らせます。

フィギュアエイト

バンク角を一定にする事で左右均等な360度旋回を目指す。切り返しはローリングのような振り子が必要ですが、加速傾向で切り返しを迎えた場合は非常に難易度が高くなるので中止する。

ビッグイヤー

実際に行う場面を想定して、基本通りスムーズに行える事が重要です。

アプローチ

2~3m/s程度の変化の無い風では場周アプローチ、変化がある場合はスロープエイト→ダイレクトベースアプローチ、風が強い場合はサイドアプローチなど、必要に応じて選択できること。
ファイナルターンの後4秒以上の直線はとても重要。

ランディング

ラインの長いタンデムでは、揺れが止まるのに時間がかかるのでファイナルターンの前にはスタンディングの姿勢を取って、余分な揺れを起こさない配慮が大切。ファイナルレグは最低4秒は取れること。

指定地ランディング

毎回翼面荷重が変わるタンデムでは自分なりの基準を作っておくと狙いやすくなります。

パッセンジャーへの配慮

テイクオフやアプローチ、ランディングは次に起こる事をパッセンジャーへ声かけができるくらい想定内での動きができること。それができない風や状況では飛ばない判断も大切。

*詳しい方法については「パラグライダータンデムフライトテクニックブック改訂版2」をご参照ください。